

授業概要

人間文化学科の学生がどの領域においても必要とするリベラル・アーツの基本的な分野を平易な英語で理解することによって、それぞれの専攻する分野で必要となる、さらに高いレベルの英語に進むための基本を養成する。英文の読解、リスニング、会話の学習を通して基本的な語彙や表現を理解して覚え、応用できるようにする。また、単に英語力を高めるだけではなく、英語を学びながら教養を深め、多様な分野に関心を持てるように指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	Unit 1 文字と言葉について英語で学ぶ (1) ウォームアップ ポキャブラリーチェック
第 3 回	Unit 1 文字と言葉について英語で学ぶ (2) リーディング
第 4 回	Unit 1 文字と言葉について英語で学ぶ (3) リスニング・オーラルプラクティス
第 5 回	Unit 3 英語の詩を読んでみよう (1) ウォームアップ ポキャブラリーチェック
第 6 回	Unit 3 英語の詩を読んでみよう (2) リーディング
第 7 回	Unit 3 英語の詩を読んでみよう (3) リスニング・オーラルプラクティス
第 8 回	まとめと復習
第 9 回	Unit 4 英語の物語を読んでみよう (1) ウォームアップ ポキャブラリーチェック
第 10 回	Unit 4 英語の物語を読んでみよう (2) リーディング
第 11 回	Unit 4 英語の物語を読んでみよう (3) リスニング・オーラルプラクティス
第 12 回	Unit 5 音楽について英語で学ぶ (1) ウォームアップ ポキャブラリーチェック
第 13 回	Unit 5 音楽について英語で学ぶ (2) リーディング
第 14 回	Unit 5 音楽について英語で学ぶ (3) リスニング・オーラルプラクティス
第 15 回	まとめと復習
第 16 回	筆記試験

授業内容、進度については、担当教員によって、あるいは遠隔授業時に若干変更されることがある。

到達目標

人間文化学科のどの領域においても必要となる英語の総合的な基礎的学力を養成する。英語の教員免許課程の科目を履修する者は、これによって中学校及び高等学校における外国語(英語)の授業に資する英語学的知見を身につける。

履修上の注意

授業には必ず英和辞典(電子辞書も可)を持参し、授業に積極的に参加すること。遅刻は受講態度においてマイナスとなる。

予習・復習

次の回に学ぶテキストの箇所を読んで、知らない語彙、表現を必ず辞書で調べておくこと。

語学力の養成には繰り返しが必要である。授業後には、授業中にとったノートとテキストを繰り返し書き、読み、繰り返し音声を聴き、発音して復習すること(音声データは出版社のサイトからダウンロードできる)。

評価方法

予習・復習の有無、随時行う小テスト、課題の提出などを受講態度として点数化し、筆記による定期試験の結果と合わせて評価する。評価方法は、担当教員によって、あるいは遠隔授業時に若干変更されることがある。定期試験 70% 受講態度 30%

テキスト

- ・教科書名：『英語で学ぶリベラル・アーツ』
- ・著者名：上村淳子、アイリーン岩崎
- ・出版社名：朝日出版社
- ・出版年 (ISBN)：2015年 (978-4-255-15562-3)

授業概要

キャンパスライフで使う英語の語彙と表現を学習することによって、英語力の向上を目指す。自己紹介、クラブ活動、学食、アルバイトなど、学生の日常生活を舞台にした会話、文章の読解、その理解を促す文法を学ぶことによって、英語の総合的な運用能力を高める。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	Unit 1 スマートトーク：ウォームアップ・オーラルプラクティス
第 3 回	Unit 1 スマートトーク：文法・リーディング
第 4 回	Unit 2 クラブ活動：ウォームアップ・オーラルプラクティス
第 5 回	Unit 2 クラブ活動：文法・リーディング
第 6 回	Unit 3 専攻：ウォームアップ・オーラルプラクティス
第 7 回	Unit 3 専攻：文法・リーディング
第 8 回	Unit 4 日本事情・休日：ウォームアップ・オーラルプラクティス
第 9 回	Unit 4 日本事情・休日：文法・リーディング
第 10 回	Unit 5 アルバイト：ウォームアップ・オーラルプラクティス
第 11 回	Unit 5 アルバイト：文法・リーディング
第 12 回	Unit 6 学生食堂：ウォームアップ・オーラルプラクティス
第 13 回	Unit 6 学生食堂：文法・リーディング
第 14 回	Unit 7 パーティ企画：ウォームアップ・オーラルプラクティス
第 15 回	Unit 7 パーティ企画：文法・リーディング
第 16 回	筆記試験

授業内容、進度については、担当教員によって、あるいは遠隔授業時に若干変更されることがある。

到達目標

キャンパスライフで使う英語を学習することによって、英語の総合的な基礎力の再強化をはかる。

履修上の注意

授業には必ず英和辞典（電子辞書も可）を持参し、授業に積極的に参加すること。遅刻は受講態度においてマイナスとなる。

予習・復習

次の回に学ぶテキストの箇所を読んで、知らない語彙、表現を必ず辞書で調べておくこと。

語学力の養成には繰り返しが必要である。授業後には、授業中にとったノートとテキストを繰り返し書き、読み、繰り返し音声を聴き、発音して復習すること（音声データは出版社のサイトからダウンロードできる）。

評価方法

予習・復習の有無、随時行う小テスト、課題の提出などを受講態度として点数化し、筆記による定期試験の結果と合わせて評価する。評価方法は、担当教員によって、あるいは遠隔授業時に若干変更されることがある。

定期試験 70% 受講態度 30%

テキスト

- ・教科書名：『*Let's Read Aloud & Learn English: On Campus* 音読で学ぶ基礎英語（キャンパス編）』
- ・著者名：角山照彦、Simon Capper
- ・出版社名：成美堂
- ・出版年（ISBN）：2019年（978-4-7919-7182-4）

授業概要

国際化する日本の教育現場において、子どもの発達段階に応じた様々なテーマを踏まえた英語会話表現を学び、必要とされる英語語彙を身につけ、スキット再現する。なお且つ、基本文法項目についてのプラクティスを行うことにより基本文法を再確認する。各課のまとめとして学習した内容についての応用として幼保英検の対策指導と小模擬試験を実施する。これらのサイクルを習得することにより実践的な教育現場で必要な身の回りの物事を英語で表現できるように指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション (授業の目標と教科書活用法、幼児・児童英語教育について+Unit 1 (1)	
第 2 回	Unit 1: What's your name? (2) お名前は? A	幼保英検小模試
第 3 回	Unit 2: Where are you from? (1) どこから来たの? (出身)	
第 4 回	Unit 2: Where are you from? (2) どこから来たの?	幼保英検小模試 B
第 5 回	Unit 3: Good morning! (1) おはよう! (あいさつの英語)	
第 6 回	Unit 3: Good morning! (2) おはよう! (あいさつの英語)	幼保英検小模試 C
第 7 回	Unit 4: Are you OK? (1) だいじょうぶ?	
第 8 回	Unit 4: Are you OK? (2) だいじょうぶ?	幼保英検小模試 D
第 9 回	Unit 5: What are you doing? (1) 何してるの?	
第 10 回	Unit 5: What are you doing? (2) 何してるの?	幼保英検小模試 E
第 11 回	Unit 6: How are you feeling? (1) どんな感じ?	
第 12 回	Unit 6: How are you feeling? (2) どんな感じ?	幼保英検小模試 F
第 13 回	Unit 7: What's she like? どんな女の子?	
第 14 回	Unit 7: What's she like? どんな女の子?	幼保英検小模試 G
第 15 回	Unit 8: Dos and don'ts していいことと悪いこと	
第 16 回	筆記試験	

到達目標

教育現場での指導に関するテーマについて必要とされる英会話表現を学び、語彙・文法を復習し、英語でプレゼンテーションを行うことにより実践的かつ総合的な英語基礎力の強化をはかる。また、学習したことが実践の場で役立つことを実証するために幼保英検の小模擬試験を必要に応じて実施し、検定取得を目指す。グローバル化時代に応じた人材の育成を目標とする。

履修上の注意

1. 語学の学習には動機が重要であり、教育現場における声掛けや身の回りの物事を英語で表現する意欲を高めること、英語でコミュニケーションを取ろうとする姿勢が求められる。教科書に付随する音声 CD を何度も聴き、耳を慣らしリピートすることが必要となる。2. 語学の学習には忍耐が必要である。スポーツと同様に練習を重ねることで実力が身につくので最後まで諦めないこと。3. 語学の学習には間違いを恐れてはいけない。間違いを重ねれば自ずと英語力が身につく。以上 3 点を常に意識すること。

予習・復習

知らない語彙、新出表現は必ずその日に覚えるように努めること。また、何度も聴くこと、何度も発音することが通じる英語には必要なので、教室だけではなく、予習・復習には自宅でも声を出して発音すること。

評価方法

予習・復習の有無、授業参加意欲、プレゼンテーションを総合的に点数化し、定期試験の結果と合わせて評価する。

定期試験 50% 総合点 50%

テキスト

- ・教科書名：『Speaking of Childcare』
- ・著者名：Peter Vincent, Naoki Nakazato (著)
- ・出版社名：南雲堂
- ・出版年 (ISBN)：978-4-523-17883-5

授業概要

大学生が商社に履歴書を送り、面接を受けるまでの成長の過程において、ビジネスに必要な英語の語彙と表現を学ぶ。受講生が就職活動をするとき、さらには入社してから必須となる英語の知識を身につけられるようにする。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	Unit 1: 英語で履歴書を書いてみよう (1) ボキャブラリービルディング・リスニング
第 3 回	Unit 1: 英語で履歴書を書いてみよう (2) オーラルプラクティス・ライティング
第 4 回	Unit 1: 英語で履歴書を書いてみよう (3) 確認と復習
第 5 回	Unit 2: 英語で応募書類を書いてみよう (1) ボキャブラリービルディング・リスニング
第 6 回	Unit 2: 英語で応募書類を書いてみよう (2) オーラルプラクティス・ライティング
第 7 回	Unit 2: 英語で応募書類を書いてみよう (3) 確認と復習
第 8 回	これまでのまとめと復習
第 9 回	Unit 3: 英語での面接に備えよう (1) ボキャブラリービルディング・リスニング
第 10 回	Unit 3: 英語での面接に備えよう (2) オーラルプラクティス・ライティング
第 11 回	Unit 3: 英語での面接に備えよう (3) 確認と復習
第 12 回	Unit 4: 英語で面接を受ける (1) ボキャブラリービルディング・リスニング
第 13 回	Unit 4: 英語で面接を受ける (2) オーラルプラクティス・ライティング
第 14 回	Unit 4: 英語で面接を受ける (3) 確認と復習
第 15 回	これまでのまとめと復習
第 16 回	筆記試験

授業内容、進度については、担当教員によって、あるいは遠隔授業時に若干変更されることがある。

到達目標

ビジネスのさまざまな場面で用いられる英語の語彙と表現を習得することによって、英語の総合的な基礎力の再強化をはかる。

履修上の注意

授業には必ず英和辞典（電子辞書も可）を持参し、授業に積極的に参加すること。会話にも力点を置くので、物おじせず、面倒がらずにはっきりと発声すること。遅刻は受講態度においてマイナスとなる。

予習・復習

次の回に学ぶテキストの箇所を読んで、知らない語彙、表現を必ず辞書で調べておくこと。

語学力の養成には繰り返しが必要である。授業後には、授業中にとったノートとテキストを繰り返し書き、読み、繰り返し発音して復習すること。

評価方法

予習・復習の有無、随時行う小テスト、課題の提出などを受講態度として点数化し、筆記による定期試験の結果と合わせて評価する。評価方法は、担当教員によって、あるいは遠隔授業時に若干変更されることがある。

定期試験 70% 受講態度 30%

テキスト

- ・教科書名：『*Business Talk* やさしいオフィス英語』
- ・著者名：城由紀子、島田拓司、Edward J. Schaefer
- ・出版社名：成美堂
- ・出版年 (ISBN)：1997年 (978-4-7919-4711-9)